

平成18年度豊かな体験活動推進事業（「豊かな体験活動の実施」）

# 豊かな体験活動推進地域・推進校 実践報告

## 推進地域：青森市

### 【推進校】

青森市立浪岡南小学校

青森市立女鹿沢小学校

青森市立大栄小学校

青森市立浪岡中学校

青森市立浪岡北小学校

青森市立浪岡野沢小学校

青森市立本郷小学校

青森県立浪岡高等学校

# 青森市

## 青森市豊かな体験活動推進地域実行委員会

- ・青森市立浪岡南小学校
- ・青森市立浪岡北小学校
- ・青森市立女鹿沢小学校
- ・青森市立浪岡野沢小学校
- ・青森市立大栄小学校
- ・青森市立本郷小学校
- ・青森市立浪岡中学校
- ・青森県立浪岡高等学校（事務局校）

実行委員会会長 藤 本 諭

### 地域の特性・状況

青森市浪岡（旧浪岡町：2005年4月1日に青森市と合併）は、青森県西部、津軽平野の中東部に位置している。西南部へ向け平野が開け、北部は津軽山地の南端、東部は奥羽山脈となる。南朝北畠氏ゆかりの地で浪岡城址や北畠累代・伝北畠の墓などがあり、地区内のほぼ中央を流れる浪岡川には「美人川伝説」が残るなど、中世の里として知られる。

米・りんごを基幹とする第一次産業が発達しており、北部の大釈迦地区には工業団地、清涼飲料水や味噌の工場がある。

### 「推進地域」としてのねらいや内容の重点

#### （1）地域理解のための体験学習の推進

職場体験活動地域や伝統文化体験活動等を通して、地域の基幹産業や伝統文化への理解と自己の生き方についての考えを深めさせると共に、地域を大切に作る心を育てる。

#### （2）地域と協力した体験学習の推進

ボランティア体験活動や各体験活動での地域の方々との交流・連携を通して積極的に協力しながら活動することの大切さと他を思いやる心を育てる。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：青森市）

【小学校：勤労生産・交流、ボランティアに関わる体験活動】

「ふるさとのよさを発見する」体験活動

青森市立浪岡南小学校

1 活動の概要

活動のねらい

校内及び地域におけるボランティア活動を通して、奉仕の心や協力して気持ちのいい学校、住みよい地域社会をつかっていこうとする態度を育てる。

浪岡地区の基幹産業である米づくりやりんごづくり体験を通して、身近な地域の産業を理解すると共に、地域の人々と関わることを通して郷土を愛する心と大切にすることを育てる。

活動の対象学年 全学年 290人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置づけ	活動場所	児童生徒の活動の状況
米づくり体験活動	5月～1月 23時間	総合的な学習の時間	借用田 学校	5年生が稲作体験協力者の指導を受けながら田植えから、草取り、稲刈り、脱穀等の体験活動を行っている。収穫した餅米はもちつき体験、稲藁はわら工芸品作りに活用している。
りんごづくり体験活動	5月～11月 20時間	総合的な学習の時間	学校 りんご園	6年生が、「りんご部会」という専門的な知識や技術を有する後援組織の指導で校舎前の11本のりんごの木を育てる。人工授粉から収穫、販売に至る一連の体験活動を行っている。今年度は、成木を管理する「会社組織」の設立やハチによる自然授粉、修学旅行での販売体験、販売用小型木箱の制作、果実のシール貼りも実施した。
花壇・農園づくり体験活動	5月～11月 11時間	総合的な学習の時間	学校花壇 学校畑	全校で、春から秋にかけて学校の花壇やプランターにPTA環境委員会の協力のもと花苗を植え、美しい花を咲かせている。また、学校農園「夢ばたけ」では、学年それぞれに農作物を育てている。水やりや草取り等の活動は、学年で計画的に行っている。
地域クリーン作戦とシルバーメール作戦	4, 7, 9月 8時間	学校行事 総合的な学習の時間	学区 通学路 学校	地域クリーン作戦は、春は校舎敷地内の雪解けのゴミ拾い、秋は、校外班ごとに保護者の協力のもと、活動を通学路まで広げている。 シルバーメール作戦は、学区の高齢者に交通安全を呼びかけるカードや手紙を作成、届けている。

3 学校支援委員会の体制  
学校支援委員会の構成メンバー

氏名	勤務先又は機関・団体名	職名
山内 栄隆	P T A	会 長
高谷 直徳	P T A	副会長
長谷川悦子	P T A	副会長
對馬 道代	P T A	副会長
坪田 順治	P T A	副会長
長谷川敏勝	りんご部会	会 長
齋藤 光朗	りんご部会	会 員

氏名	勤務先又は機関・団体名	職名
中村美喜雄	りんご部会	会 員
長谷川元信	りんご部会	会 員
佐藤 克則	学 校	校 長
山口 一雄	学 校	教 頭
澤田 仁	学 校	教 務
須藤 桂子	学 校	6年主任
今 圭美	学 校	5年主任

米やりんご作り体験活動は、上記の支援委員会の担当委員が、計画の確認や直接の技術指導を担当した。

ボランティア意識の醸成をねらいとした二つの活動のうち、クリーン作戦は、校地内および近隣地域での実施を保護者の協力を得つつ、学区全体に拡大して実施できた。また、シルバーメール作戦は、自分の祖父母に対して交通安全啓発のカードを贈ることから、浪岡南警察署及び交通安全母の会と連携し、旧浪岡町内の高齢者にもカードを贈呈することに拡大できた。しかし、これらの連携活動は、当該事業を通して行われるにとどまっており、この活動を踏み切り板としつつ、日常の教育活動における連携に高めていく必要性を感じている。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

本校の総合的な学習の時間「わくわくタイム」は、(ア)自ら考え学ぶ力(イ)表現する力(ウ)かかわる力(エ)学びを生活に生かす力を身に付けさせることを目的としており、総合学習の評価規準表を使っている。具体的にはこの表をもとにした子どもたちの自己評価カードや感想による評価、外部指導者からの聞き取り評価、教師の指導評価を総合したものとしてある。

高学年においては、下の学年に伝える活動、お世話になった方への感謝の活動等が学習の締めくくりとなるが、例えば、米の学習においては稲わらの活用方法や販売活動、りんごの学習においては農薬散布、剪定、雪害から守る活動等大人の協力に依るところが大きいことから、この関係性の形成や維持と協力層の拡大が今後の課題と思われる。

5 活動の成果と課題

クリーン作戦やシルバーメール作戦などの社会奉仕に関わる体験活動を通して、「人のために役に立つ」ことの喜びや仲間や地域の人々と共に活動する楽しさを味わわせることができた。また、米づくりやりんごづくりをとおして、身近な地域の産業を理解すると共に、自分たちの住む地域の素晴らしさを感じさせることができた。

本年度の豊かな体験活動は、本校のこれまでの体験活動を深化させたもので、成果が十分見られた。今後は、児童の主体性を大切にしながら児童自身からも活動内容を見いだしていけるようにしていきたい。また、さらなる体験活動推進のための多くの人とのネットワークや範囲の拡大を図ることが課題である。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：青森市）

【小学校：勤労生産、自然に関わる体験活動】  
**稲作体験活動・自然ふれあい体験活動**  
 青森市立浪岡北小学校

1 活動の概要

活動のねらい

浪岡の基幹産業である米の農業体験、生育の観察、研究施設の見学を通して、身近な地域産業を理解し、大切にしようとする態度を育てる。

宿泊体験活動を通して、普段なかなか接することの少ない海での活動や種差の豊かな自然に触れ、自然に親しむ心を育てる。

活動の対象学年：5学年・66名

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動上の状況
自然ふれあい活動 ・自然の動植物とのふれあい ・海での体験活動	8月～9月 20時間	学校行事	種差少年自然の家	豊かな自然の中での活動を通して、自然の美しさや自然の偉大さにふれることができ、自然を大切の使用とする心が育ってきた。
稲作体験活動 ・田植え体験 ・稲刈り体験 ・もちつき体験 ・稲作についての調査	5月～12月 25時間	総合的な学習の時間 学年行事	学校借り上げ田学校	田植え、生育観察、稲刈り、もちつき体験と自分たちで植えてから収穫までの体験を地域の方々の指導のもとに活動することができた。

3 学校支援委員会の体制

(1) 学校としての支援体制

教育振興会会員、PTA役員、学校代表の13名で学校支援委員会を組織した。

稲作体験は、「総合的な学習の時間」「特別活動（学年行事）」の年間計画に基づき、教育振興会の会員の協力を得ながら推進した。

自然体験活動は、「学校行事」の計画に基づき、少年自然の家の職員の協力を得ながら、学校の職員5名の引率・指導のもとで活動した。

(2) 配慮事項

稲作体験活動においては、地域の方々の協力を得ながら進めるため、時間調整や天候による予定変更など、きめ細かな連絡調整が必要であった。

自然体験活動においては、宿泊先で他校との合同宿泊になることもあり、活動内容の調整や活動場所の調整のための事前打ち合わせが必要で、遠距離の場合何度も打合せを行うことができなかった。

4 活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 評価の工夫

評価の観点

- ・自然体験を通して、自然に親しむ心を育てることができたか。
- ・積極的に自然と関わることができたか。
- ・稲作体験を通して、地域の基幹産業について関心を深めることができたか。

評価の方法

- ・壁新聞やポートフォリオファイルへの記録や感想を蓄積することによって、評価や次の活動に生かせるようにした。
- ・「学校行事」「総合的な学習の時間」において実施しているので、それぞれの評価規準に照らして、個々の活動の様子の観察、児童の自己評価・相互評価、教師相互の情報交換、外部講師からのお話などをもとに評価した。

評価の実際

- ・稲作体験活動では、作業が終わる毎に、作業内容や感想などを取り入れ、作業前や作業

後の調査したことを入れて、壁新聞にしたり、調べたものをポートフォリオファイルに綴じた。これらをもとに自己評価及び相互評価をし、合わせて教師も評価し、児童の励みとなるようにした。

- ・自然体験活動では、作文にしたり壁新聞にして張り出すなどし、児童の相互評価、教師による評価を行った。

## (2) 指導の改善

- ・教師の側から課題を与えての活動が多かった。次年度では、児童の興味・関心に基づいたプログラムも取り入れられるようにしたい。
- ・他教科との関連を図り、自然を大切にしていこうとする態度を育てるための手だてを考えていきたい。

## 5 活動の成果と課題

### (1) 成果

#### 稲作体験活動

- ・農作業の大変さを実感し、食べ物を大切にしようとする心が育ってきた。
- ・地域の方々のご支援・ご協力によって、児童がのびのびと活動することができ、地域の良さを再発見することにつながった。

#### 自然体験活動

- ・海辺での活動では、大変意欲的に活動できた。また、豊かな自然に触れたことによって、自然の大切さや自然との関わり方について理解を深めることができた。

### (2) 児童の感想から

#### 田植え体験

田植えには大体3～4本くらいの苗を植えて、きちんとまっすぐ植えなければダメなんだそうです。田んぼの中にまっすぐ植えやすく線を入れてもらったけれど、なかなかむずかしかったです。それでも、手作業できれいにまっすぐ植えたいと思って、一生けんめいやりました。私は、自分たちがきちんとやらないときれいにのびないんじゃないかと思いました。せっかく苗を育ててもらったり、田んぼの管理も石村さんたちにやってもらっているのにてきとうにやったりして、お米をダメにしたいかと思って作業しました。

終わってみると自分なりによくできていたなと思いました。少しむずかしくて大変だったけど、今は、とても楽しい作業だったと思います。

#### 稲刈り体験

わたしは、この稲刈りをやってお米のことが前よりもわかりました。そして、お米を作ることはとても大変なことと知りました。とてもつかれましたが楽しかったです。

#### 宿泊体験教室

いかだ作りやナイトハイク、やき板などでも、考動をがんばりました。それを意識していたら、人にやらせないで自分からすすんで取り組む、ということも学習できました。それだけではなく、なかまと協力することもできました。

### (3) 課題

児童の興味・関心にあった活動の計画、実践へつなげられるようにしていきたい。学校行事や総合的な学習の時間だけに限らず、他の教科との関連を図った体験活動にしていきたい。

地域に基幹産業である稲作だけでなく、りんご栽培の体験活動を取り入れていければと考える。

《宿泊体験教室；いかだ作り》



《田植え体験》



平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：青森市）

【小学校：社会奉仕、自然、文化や芸術に関わる体験活動】

「地域の人、もの、こと」に学ぶ体験活動

青森市立女鹿沢小学校

1 活動の概要

活動のねらい

- (1) 地域の「人、もの、こと」との触れ合いと体験活動を通して、豊かな人間性と郷土を愛する心を育てる。
- (2) 地域の人との相互理解やコミュニケーション能力を育てる。

活動の対象学年：全校・201人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
高齢者疑似・車イス体験 デイサービスセンターボランティア体験(1)	6月 (2時間) 11月 (5時間)	総合的な学習の時間 総合的な学習の時間	学校 総合保健福祉センター	6年児童が学校玄関と体育館で高齢者疑似・車イス体験をした。 6年児童が合奏や一輪車、寸劇の発表をしたり、昔の遊びや肩もみサービスで交流を深めた。
自然体験教室 冬季自然体験教室	6月 (2日間) 2月 (1日間)	学校行事及び総合的な学習の時間 体育及び総合的な学習の時間	梵珠少年自然の家 鱒ヶ沢スキー場	5年児童が剣玉づくりやキャンプファイヤーなどの体験をした。 3～6年児童がスキー技術の習得を通して冬の自然を楽しんだ。
りんご栽培体験	5～11月 7回 (計7時間)	総合的な学習の時間	父母所有園地	3年児童が実すぐり、葉取り、袋かけ、袋はぎ、玉回し、収穫などのりんご栽培を体験した。
スーパー、工場、公共施設の見学	5～9月 4回 (計8時間)	生活科及び総合的な学習の時間	地区内または近隣地区内	1～4年児童がそれぞれ地区内において見学・調べ学習をした。
縄文勾玉づくり体験 函館ガラス細工体験	5月 (2時間) 9月 (2時間)	総合的な学習の時間 学校行事	三内丸山遺跡 函館市	6年児童が三内丸山遺跡見学と勾玉づくりを行った。 6年児童がキーホルダーなどのガラス細工体験をした。

弘前市内自主見学	10月 (1日間)	総合的な学習の 時間	弘前市内	5年児童が各自のテーマに基づいて弘前市内の自主見学をした。
----------	--------------	---------------	------	-------------------------------

### 3 学校支援委員会の体制

- ・6年ボランティア活動でお世話になった社会福祉協議会浪岡支部職員と3年りんご栽培体験体験を指導していただくPTA会員、PTA会長、校長、教頭、教務主任、TT専科(豊かな体験活動担当)の7人をもって学校支援委員会を組織した。
- ・学校支援委員会会議において、活動のねらいや活動の概要について理解していただき、外部指導者としてもご協力をいただくことができた。
- ・地域の方の協力を得ながら活動を進めていくため、学校側が中心になって、活動時期や時間調整、天候による予定変更などきめ細かな連絡調整を行うことが必要である。

### 4 活動の評価の工夫と指導の改善

- ・活動の評価の観点として次の7つを設定し、単元ごとに主たる観点を2～3つ選んで、学級担任が評価を行ってきた。

- ア 課題設定能力
- イ 問題解決能力
- ウ 主体的・創造的な態度
- エ 学び方・ものの考え方
- オ 思いやり・生き方
- カ 情報活用能力
- キ 表現力



- ・評価の方法としては次のものを内容に合わせて取り入れていった。

- ア 自己評価
- イ 相互評価
- ウ ポートフォリオ
- エ 観察、見取り
- オ 発表資料
- カ 作品
- キ 対話
- ク ノートなどの内容



- ・冬季自然体験教室など地域の方にも指導をお願いした活動は、活動終了後に当日の様子について簡単なアンケートを取り、外部指導者から見た活動の評価もいただいている。

### 5 活動の成果と課題

- ・地域の「人、もの、こと」とのふれあいを活動の中に盛り込むことによって、主体的に活動しようとする意欲や態度が育ってきた。
- ・ボランティア体験を行ってきたことにより、学級活動や児童会活動、日常生活においても優しさや思いやりの心が育ってきている。
- ・コミュニケーション能力の育成については、次年度も体験活動を通して地域の人との関わりの中でしっかり学ばせていく必要がある。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：青森市）

【小学校：勤労生産、文化や芸術、交流に関わる体験活動】

ふるさとの豊かな体験活動

青森市立浪岡野沢小学校

1 活動の概要

活動のねらい

地域の特性を生かした体験学習の推進

米や野菜の農業体験、生育の世話・観察等を通して身近な地域の産業を理解し、人材の素晴らしさ、自然の恵みに触れさせ、ふるさとのために積極的に活動しようとする態度を育てる。

地域の人々との交流体験学習の推進

米や野菜の収穫や調理を通じた食に関する文化を体験したり、地域の名所・施設を訪問したりすることでお年寄りや地域の方々と温かな心で交流する。

活動の対象学年：第1学年20名、第2学年18名、第3学年20名  
第4学年21名、第5学年20名、第6学年17名

2 年間活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
【米作り体験】	4月～10月 (30時間)	総合的な学習 の時間	借り上げ田 学校	田植え、除草、稲刈り、脱穀作業は、5年生が体験した。野沢地域文化祭では、収穫米での餅つき大会を実施した。
【りんご作り体験】	5月～10月 (10時間)	総合的な学習 の時間	借り上げ畑	3年生が摘果、袋かけ、袋はぎ、葉取り、収穫までの体験活動を行い、栽培における一連の農作業過程を学習した。
【野菜作り】	5月～10月 (20時間)	生活・総合的な学習の時間	借り上げ畑・ 学校	各学年で、ジャガイモ、サツマイモ、大豆、トウモロコシ、スイカなどを栽培し、水かけや草取り等の世話をした。生長の観察や調理実習等の学習にも生かした。
【ふくろうの学習】	6～9月	総合的な学習	学校・学校周	3・4年生が、外部講師を

	(10時間)	の時間・図工	辺リンゴ畑	招いて、リンゴ畑に生息するふくろうの生態について学んだり、張り子のふくろう作りの学習を行った。
【吉野田獅子踊】	11～2月 (12時間)	総合的な学習 の時間・学級 活動	学校・浪岡中 世の館・老人 ホーム	5・6年生が中心となり、伝統芸能の継承活動に取り組み、地域イベントの場において獅子踊りを披露している。

### 3 学校支援委員会の体制

#### 校内推進委員会の設置

校長、教頭、教務主任、総合的な学習担当で構成し、各学年から出された体験活動の企画を吟味、調整をし各学年の実践につなげる。

学校支援委員会の主な計画、特に検討する必要がある課題等、豊かな体験活動推進事業の活動計画や予算案、組織や役割分担、活動状況、問題点についての協議の場とする。

第1回（6月）委員会組織及び活動計画の説明

第2回（10月）活動状況、問題点についての検討と情報交換

第3回（2月）活動報告と次年度への改善点の確認

（地域支援委員は8名 学校職員は4名）

### 4 活動の評価の工夫と指導の改善

体験のみの活動で終わらないよう、事前にどんな力をつけるのかを充分検討し、それぞれの活動において児童の自己評価や相互評価をさせた。

体験を通しての感想やお世話になった方々への礼状を作成したり、地域文化祭の場において感謝状を贈り、今後に継続できるよう配慮した。

一連の体験活動の作業過程は概ね習得できている。高学年においては、さらに一歩踏み込んで学習しようとする意識も育ってきている。

体験後の学習をさらに深め、広げるような、一人一人がもっと問題意識を持って望むような学習態度を育てていきたい。

### 5 活動の成果と課題

「体験活動の種類」「ねらい」「重点」を示すことにより勤労生産、文化や芸術、交流に関わる具体的な内容が明確にされた。

様々な体験活動をいとわず、実践して覚え、身につける子どもが増えてきた。

地域の方々との交流により、あいさつや返答の仕方が以前よりハキハキとできるようになった。

老人ホームなど地域の施設を訪問したりすることにより、それぞれの学年に応じた思いやりや感謝の気持ちが育ってきている。

「主な活動計画」と、生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画との整合性を図っておく必要があった。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：青森市）

【小学校：ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動】

福祉・ボランティア体験活動  
青森市立大栄小学校

1 活動の概要

活動のねらい

福祉に関心を持ち、ボランティア活動を日常に生かそうとする態度を身につける。

活動の対象学年：3, 4年・19人 5、6学年・20人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
大釈迦クリーン 作戦	4月・5月 6時間	総合的な学習 の時間、社会科	通学路	まず、通学路のゴミの状況を調べた。それを踏まえてゴミ拾いの計画を立てて、児童が積極的に環境美化に取り組んだ。
高齢者疑似体験	9月 4時間	総合的な学習 の時間	本校	ユニバーサルデザインについて青森県の職員から講義してもらい、その意味や価値について学んだ。 高齢者疑似体験を通してお年寄りが日常生活をする上での苦勞や困難、介助の難しさを学習した。
特別養護老人 施設訪問	12月 10時間	総合的な学習 の時間	特別養護 老人施設 (浪岡地区)	施設見学のために、介助と介護について学習した。その後施設を訪問し、職員の方の介護の実際を見た。工夫や苦勞について質問した後、老人と交流した。
大釈迦保育園と の交流	12月 2月 15時間	総合的な学習 の時間	保育園 本校	前準備を重ねて、交流会を開き、園児や職員との連携を深めた。 1回目は3.4年生が出かけてゆき、音楽やゲームなどで、2回目は大釈迦保育園の年長児童が来校し、1年生と一緒に授業をしたり遊んだりして、楽しいひとときを過ごした。

### 3 学校支援委員会の体制

- ・学校支援委員会は、校長 教頭 教務主任 学担の他、PTA会長 副会長にもお願いし、渉外や借用物の学習環境の整備にあたってくれた。
- ・特別老人ホームに勤めておられる保護者もいられたので、その方々にも臨時に支援委員会に出席をお願いした。

### 4 活動の評価の工夫と指導の改善

- ・ポートフォリオによる形成的評価を主に評価した。
- ・振り返りカードや感想文をグループで見合った後、全体に広げることで1人の体験を全体のものとした。

### 5 活動の成果と課題

- ・クリーン作戦を通して、ポイ捨てしないなど環境美化に対する意識に変化が見られた。おかげで当初予定していなかった通学路についても、自主的にゴミ拾いができた。
- ・ユニバーサルデザインについて実際に見て触れて体験したことにより、その価値について理解することができた。また、身近にあるユニバーサルデザインを探したり、自分で考えたりしようとする意欲を持つことができた。
- ・高齢者疑似体験を通して、老人が日常生活でどのような苦勞をしているのか、また、介助する上でどのような難しさがあるのかを知ることができた。
- ・特別養護老人施設を訪問して老人の生活の実際を見ることで、自分たちにどのようなことができるのか、また、どうすればお年寄りの方々が喜んでくれるのかについて体験を通して学ぶことができた。
- ・特別養護老人施設の職員からは、今すぐ福祉・ボランティアについて意識して日常生活を送ってほしいというのではなく、老人に接する際に笑顔・目線に気をつけてくれればよいと教えられた。また、施設訪問の際たくさんの質問が出されたことについて、子どもたちの学習意欲の高さを誉められた。
- ・高齢者だけに限らず、ボランティア活動の対象の幅を広げていけるような指導計画も必要だと感じた。
- ・今後も5、6年生が特別養護老人施設訪問をしていくが、訪問をしての体験がそのまま終わらないよう、教育課程の位置付けを再考していく必要がある。

例 施設訪問の回数を増やし、体験と体験の間に主体的に取り組むための学習活動を適宜取り入れる

体験を通して学習してきたことを来年度の5年生に伝えることで、今後の学習にむけて意欲付けを図っていく。

- ・保育園との交流会は、互いをよく知る機会になっているとともに、本校に入学する児童の情報等を得られ、とても有意義であった。マンネリ化せず今後も継続したい。



特別養護老人施設訪問の様子



高齢者疑似体験の様子

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：青森市）

【小学校：勤労生産、自然、文化や芸術に関わる体験活動】

ふるさとを知り、ふるさとを楽しむ体験活動

青森市立本郷小学校

1 活動の概要

活動のねらい

自然に関わる体験活動

すずらんを植えることを通して、自然の豊かさを実感しながら自然（ふるさと）を大切にしようとする態度を育てる。

勤労生産に関わる体験活動

田植えと稲刈りの農作業などを通して、勤労の尊さを知り、積極的に活動しようとする態度を育てる。

文化や芸術に関わる体験活動

『本郷凧』を製作し、揚げることを通して、ふるさとの文化への理解と愛着を深める。

交流に関わる体験活動

餅つきや雑煮の会食を通して、地域（ふるさと）の人々との交流を楽しもうとする積極的な態度を育てる。

活動の対象学年：全校・65人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
育て、もち米くん ・バケツ稲くん	4～10月 15時間	総合的な学習の時間	学校田 学校	5年生が草取りやかかし作りを体験した。バケツ稲を育て、観察結果をまとめて発表した。
お米をつくろう	5月、9月 6時間	総合的な学習の時間	学校田	学校田での田植え及び稲刈り作業を、地域、PTAの協力を得て全校で体験した。
すずらんの里に、 すずらんをうえよう	6月 3時間	総合的な学習の時間	すずらんの里	全校で『すずらんの里』にすずらんの苗を植えた。その後周辺の散策や山菜採りも体験した。
餅つきを楽しもう	12月 5時間	総合的な学習の時間	学校	地域、PTAとの交流餅つき会で、全校が餅つきを体験し、餅料理の会食で交流を深めた。

『本郷凧』をつくって、とばそう	2月 6時間	総合的な学習 の時間	学校	全校で『本郷凧』の凧絵を描くなどの製作に取り組み、「凧とばし集会」も実施した。
-----------------	-----------	---------------	----	---

### 3 学校支援委員会の体制

#### 組織

P T A（2名）、活動にかかわる地域の諸団体（3名）、学校（3名）の8名。

#### 連携

多くの団体から多大な理解と協力が得られ、滞りなく実施することができた。学校支援委員会の会議では、参加団体だけでなく、委員を通してその他の団体や地域の声も紹介され、本事業への理解の深まりを感じるとともに、貴重な意見として大いに参考になっていた。

#### 配慮事項

連絡・調整を適切に行うとともに、日頃の情報交換も欠かさないようにした。

### 4 活動の評価の工夫と指導の改善

評価が以後の活動に生かされることを重視して、計画的、効率的に実施できるよう校内で共通理解を図った。

事前指導（活動の手順だけでなく、ねらいやポイントなどを明確にする）が確実に行われることによって、子どもたちも指導者も見通しをもって活動に参加することができた。

事後指導においては、自己評価（カードや簡単な記録ノートの活用）が的確に実施されるとともに、感想も活発に発表されるようになった。

### 5 活動の成果と課題

#### 児童の変容について

子どもたちは意欲的に活動に取り組んでおり、地域やP T Aの協力も相まって充実した活動を体験することができた。

「すずらの里にすずらんをうえよう」の活動では、すずらの苗植えの体験及び周辺の散策や山菜採りの体験を通して、地域の自然や歴史に関する理解を深めながら親しみをもつことができた。

「お米をつくろう」及び「餅つきを楽しもう」の活動では、学校田での田植えや稲刈り作業の体験を通して、地域の人々の実際の生活を体験するとともに、餅つき体験や地域の人々との会食を通して、積極的に交流しようとする態度が身につけてきている。

5年生が実施した「育て、もち米くん・バケツ稲くん」の活動においては、学校田の稲の観察、草取りやかかし作りなどの作業体験、バケツで育てる稲の世話と観察や発表会などの活動を通して、食に対する関心が高まり、進んで活動に取り組む態度が見られるようになった。

#### 今後の課題について

今年度はこれまで実施していた行事や活動が中心だったので、実施について特に問題はなかったが、反省を踏まえて評価の観点をより明確にすることが必要である。

2年次の計画を速やかに作成するとともに、この事業が終了した後の体験活動の進め方についても検討していきたい。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：青森市）

【中学校：推進事業に関わる体験活動】

豊かな体験活動

青森市立浪岡中学校

1 活動の概要

活動のねらい

「心豊かな人づくり」のテーマのもとに、日本、アメリカ、青森の自然や特性、人材等を生かし、交流を図る体験活動を通して、国際社会や日本、青森を見つめ自己の生き方を見つめ直すとともに、豊かな心を育む。

活動の対象学年：1～3学年・645人

2 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
クリーン作戦 (清掃奉仕)	4 / 5 / 9 / 3月 10時間	総合的な学習 の時間	学校周辺	入学式、体育祭、学校祭、卒業式に合わせて隣接の運動公園や学校周辺のゴミ拾い環境整備を行い、環境美化、ボランティアの精神を学んだ。
芸術鑑賞・体験活動 (芸術鑑賞教室)	7月 2時間	総合的な学習 の時間	本校体育館	一流の芸術家、アーティストによる演技、芸能などの鑑賞等を体験することにより美的感性などを身につけた。
ホームステイ	8 / 3月 1日3時間	総合的な学習 の時間	本校体育館（ 鹿児島県・ア メリカ メー ン州）	二つのホームステイやその交流会を通して異文化にふれ相互理解に努めることができた。
福祉体験活動	10月 1日3時間	総合的な学習 の時間	国立岩手青年 の家	高齢者、身体障害者の疑似体験を通して、ボランティアのあり方について学ぶことができた。
自然ふれあい活 動（宿泊体験）	10月 3日（24時 間）	特別活動（学校 行事）	国立岩手青年 の家	様々な自然ふれあい体験を通して、施設周辺の自然や生活する地域の豊かな自然について学んだ。
職場体験活動	10月 3日（24時 間）	総合的な学習 の時間	地域内各事業 所	地域内の事業所に自ら連絡を取り就労体験をすることによって将来に備える力をつけた。

### 3 学校支援委員会の体制

#### 【学校支援委員会の構成】

氏名	勤務先又は機関・団体	職名	備考
出町幸太郎	青森市立浪岡中学校	校長	
榊彰久	青森市立浪岡中学校	教頭	
成田俊則	青森市立浪岡中学校	教諭	教務主任
赤石清之	青森市立浪岡中学校	教諭	総合指導部長
加藤秀夫	浪岡中学校PTA	会長	
鳴海一成	浪岡中学校PTA	副会長	
斉藤光朗	浪岡中学校後援会	会長	学校評議員

### 4 活動の評価の工夫と指導の改善

- ・どのように評価し、どう指導の改善に役立てたか

#### 体験活動に係る評価について

- ・実施した評価方法について

ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動……観察・記録

自然に関わる体験活動……観察・記録・レポート作成

職業・勤労・就業に関わる体験活動……事業所からの評価・自己評価・レポート作成

文化や芸術に関わる体験活動……感想文の記述

交流に関わる体験活動……感想文の記述・レポート作成

- ・体験活動に係る評価をしていく上での成果は各担当、学年ごとにまとめ、次の活動等に活かしている点である。
- ・体験活動に係る関係機関との連携していく上での成果は、連絡したり協力を要請したりすることで、互いに理解が深まった点である。
- ・本事業実施の成果の一つは計画案の作成のために学校行事への理解が格段に進んだことなどである。

#### 本事業で体験活動に取り組んだ後の児童生徒の変容について

- ・体験活動を経験すればするほど、そのもの自体から学び取ったり、関係する人々から無形のものを吸収するなど精神面での成長が著しい。また、諸事に対する好奇心が旺盛になる傾向がある。

### 5 活動の成果と課題

- ・一定期間のまとまった活動を体験した児童生徒の変容

- ・外部指導者や受け入れ先の所見等

- ・今後の取組への改善点や課題

- ・推進委員会の企画力とその実行力が本事業の成否を左右することを理解できたことは一つの成果である。
- ・評価をしていく上での課題はそれをいかに総合してまとめるかという点である。
- ・体験活動に係る関係機関との連携していく上での課題は次の活動への計画や展望などに広げることである。
- ・予算案の立て方などをどのような観点で進めるかなど、校内推進委員会の適切な運営のための方策が一つの課題である。
- ・支援委員会を本事業の核にして運営を行う予定だったが、取り組みの遅れ等により十二分に活用できぬままに終わってしまったため、次年度は十分な企画段階の話し合いをする必要がある。

平成18年度豊かな体験活動推進事業（推進地域：青森市）

【高等学校：勤労生産、職場・職業・就業に関わる体験活動】

地域の企業と文化について学ぶ体験活動  
青森県立浪岡高等学校

1 活動の概要

活動のねらい

- ・地域企業について学ぶ体験学習

地区の企業を生徒が直接訪問して聞き取り調査をし、その結果を校内パワーポイント発表・学校ホームページ公開する。

- ・地域企業について学ぶ体験学習

講師を招いた伝統的な浪岡津軽凧を個人ごとの製作を通して、郷土を愛する心を育む。

活動の対象学年：第1学年105名

2 年間活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数 単位時間数	教育課程上の 位置付け	活動場所	生徒の活動の状況
【お店調べ】	5月～6月 (14時間)	総合的な学習の 時間	学校	・グループづくり ・青森市浪岡地区の企業を事前予備 調査 ・聞き取り調査申込み
	7月 (4時間)	総合的な学習の 時間	浪岡地区	・直接訪問による聞き取り調査
	8月～10月 (9時間)	総合的な学習の 時間・情報A	学校	・調査先企業へのお礼 ・調査内容まとめ ・パワーポイントでの発表準備 ・校内発表 ・学校ホームページでの公開準備 ・ホームページ公開
【津軽凧制作】	9月 (8時間)	総合的な学習の 時間	学校	・津軽凧制作（個人単位）

3 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

校内推進委員会の設置

教育課程委員会内に教頭・教務主任・生徒指導部主任・各学年主任からなる

「総合的な学習の時間・豊かな体験活動検討委員会」を設置した。

校内推進委員会の活動

・「総合的な学習の時間」及びLHR、教科「情報A」の各年間指導計画に基づき、全教職員と共通理解を図りながらの活動内容を企画した。

・PTA、地区総合保健センターや社会福祉協議会等、地域の協力を得ながら推進してきた。

5月26日(月) 第1回学校支援委員会会議  
事業概要説明、推進計画協議

2月16日(金) 第2回学校支援委員会会議  
事業の経過報告、成果と課題

#### 4 活動の評価の工夫と指導の改善

評価については、記録や感想の蓄積、「総合的な学習の時間」の評価規準に照らした個々の活動の様子の観察、生徒の自己評価・相互評価、教師相互の情報交換、外部講師からの評価などと共に、教科「情報A」と連携したパワーポイントによる校内発表資料作成、ウェブページ作成等を通したプレゼンテーション技術をも評価の対象とした。

#### 5 活動の成果と課題

・浪岡地区の多くの企業から理解と協力が得られた。生徒達の体験活動だけでなく浪岡高校の活動を企業側にも理解してもらい、地域企業との絆を深めることが出来た。これを来年度の体験活動やインターンシップ活動、そして生徒達の進路実現へとつなげたい。

・今年度の活動はこれまで実施していた総合的な学習の内容が中心であったが、活動内容のまとめとしての具体的なプレゼンテーション技術については、教科「情報」での活動が重要な要素となった。来年度は総合的な学習(事前準備・活動集中日)の計画とともに教科「情報」での活動についても充分検討し、校内発表等をさらに工夫するとともに記録集を作成し、それらを含めた総合的な評価の観点について検討したい。